

オスプレイ 停止解除

日米「事故は部品不具合 機音問題なし」

米軍は8日、鹿児島県屋久島沖で昨年11月末に起きた輸送機オスプレイの墜落死亡事故を受け、12月から世界各地で続けている飛行停止措置を解除すると発表した。防衛省によると、事故原因は特定の部品の不具合だとし、「オスプレイの設計と構造に問題はない」と

日本双方が確認。安全に行飛行再開できると判断したという。

日本でのオスプレイ飛行再開の具体的な日時については、両国で引き続き調整するところ。

米海軍は声明で「8日をもってオスプレイの飛行許可を発出し、運用停止を解除する。航空機の乗員の安全を最優先とする、周到かつデータに基づいた取り組みを進めた結果、この決定に至った」と述べた。

オスプレイは「我が國の防衛を支える上で不可欠な役割を果たしている」とも強調した。

木原稔防衛相は8日午前、米側から日本国内での飛行再開の日程調整の打診が7日夕にあったと明らかにしていた。

事故は昨年11月29日に起きた。米軍は初期の調査で「機材の不具合」があると指摘し、12月6日、米軍全体でオスプレイの飛行を停止する異例の措置をとつていた。

(下同佳代子=ワシントン、田嶋慶)